

## 兼松エンジ、高知市で工場用地取得 県内2拠点を集約

2018/11/8 6:15 | 日本経済新聞 電子版

環境関連の特殊車両製造を手掛ける兼松エンジニアリングは7日、高知県と高知市が同市一宮地域で開発・分譲した高知中央産業団地に工場用地を取得したと発表した。県内2カ所の拠点を集約して生産効率を高める。今後発生が予想される南海トラフ地震にも備える。

取得したのは同団地で分譲されたA～Cまで3区画のうちB、C区画で、土地面積は3万3581平方メートル。取得金額は8億3000万円で、自己資金でまかなう。7日に県、市と契約を結び、11月中旬に引き渡しを受ける。「新工場建設の時期や規模は今後詳細をつめる」(同社)。

同社の生産拠点は、本社も置く高知市布師田地区と南国市明見地区に分かれている。ただ、車台に強力吸引装置を架装する工程や塗装の工程が分かれているなど、生産効率に課題があった。

本社工場は津波による浸水が予想される場所に立地する。一方取得した団地の用地は高台にあり、BCP(事業継続計画)の観点から移転を検討していた。佃維男社長は「災害復旧などに必要とされる製品をつくる企業として、南海トラフ地震に備え、供給責任を果たしたい」と強調する。



本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

